

### 3 理事長賞

#### 地域で支える産後うつ ~支援から見た課題と可能性~

■産後うつ支援におけるケアプラザとしての役割整理と課題の明確化

産後うつは早期発見と継続的な支援が鍵となります。霧が丘地域ケアプラザでは、一人の母親との出会いをきっかけに、地域・行政・医療が連携し、支援のあり方を見直してきました。その支援の過程と母親を地域で支える仕組みの重要性を紹介します。

**育児や日常生活に強い負担を抱えたA様**

- 30代前半の経産婦
- 夫・長女・次女の4人家族
- 表情や言動に元気が乏しく、産後うつが懸念される様子で来所

**MEMO 産後うつとは?**

- 現在は**自死による死亡要因が最多**
- 初産婦・経産婦とも発症するため、長期的な見守りと支援体制が重要

発症時期	出産後2週間以降～数ヶ月以内
持続期間	数週間～数ヶ月 適切な治療等がなければ
対応方法	医療介入が必要 慢性化することも
発症率	10～15%程度 ▶10人に1人～2人が発症

■地域連携による回復の流れと支援体制の構築

**Aさまの状況・心情**

- 眠れない、頭が休まらない
- 体が重い、髪が抜けボサ
- 今日が始まるのが嫌だ

**通院をしようとしたが**

- 通院により症状が落ち着きはじめ、回復傾向にある

**産後うつ病と診断**

- 地域と連携した新たな取り組みや、他地域の先進事例を踏まえつつ、シニアママボランティアなど地域資源を効果的に活用し、地域全体で親子を支える体制の構築を推進していきます。

■今後の展望

産後の不安を抱える母親を早期に支えられる体制が着実に広がってきました。今後も行政・医療・地域が連携し、霧が丘ケアプラザが「つなぎ手」として地域資源を結びながら、誰もが安心して子育てできる環境づくりを進めていきます。

### 2026年3月1日 NEW OPEN!

#### 優ったりグループホーム 板橋四葉

#### 優ったり看護小規模多機能介護 板橋四葉

所在地 板橋区四葉1-16-13

アクセス 東武東上線「下赤塚駅」徒歩18分

事業内容

- 認知症高齢者グループホーム(18名)
- 看護小規模多機能型居宅介護(登録24名)
- 地域交流スペース

関係者の皆様にご参加いただき、開所式を行いました!

開所式の様子

グループホーム 共同スペース

看多機 居室

地域交流スペース

CONTACT 見学・入居・利用をご希望の方はこちら

グループホーム

03-6909-9720

yotsuba-grouphome@foryou.or.jp

看多機

03-6909-9720

yotsuba-kantaki@foryou.or.jp

## フォーユー新聞

— Vol.17 —

2026 April

### 第18回奉優会事例研究発表会を開催しました!

第18回奉優会事例研究発表会が令和8年2月22日(日)にハイブリッドにて開催され、法人職員はじめ自治体、学校関係者の皆様745名が参加されました。全235事例の中から46事例の発表がありました。そのうち表彰10事例を紹介させていただきます。

#### 家族会の視点から振り返る事例発表会

等々力の家の家族会は、長年ご自宅で介護を続けてこられたご家族が、「入所後も何か職員の皆さんのお力になりたい」という思いから生まれた集まりです。私自身もその一員として関わってまいりました。家族が退所した後も、そのつながりは途切れることなく、現在も買い物ボランティアなどの活動を続けているメンバーがおります。家族会としての活動の形は変化しつつありますが、そこにある思いや関係性は、今もなお大切に受け継がれているものと感じております。

私はこれまで、等々力の家の家族会として、毎回事例研究発表会を拝見してまいりました。第1回より家族会を代表して参加し、その後は家族会名誉会長、評議員という立場となってからも、引き続き出席しております。

第1回の発表では、胃ろうで栄養を摂られていたご利用者が、かつて仕事にされていたソーセージづくりをきっかけに「食べる意欲」を取り戻された事例が紹介され、今も強く印象に残っております。その発表に触れられ、家族会でも実際にソーセージづくり体験会を開催したことを思い出します。

事例研究発表会初期の頃からパワーポイントを活用し、職員の皆さんが「より良いケアを目指したい」という熱意を持って取り組まれていた姿に、深い感銘を受けました。現場の実践を言語化し、共有していく文化は、その頃からしっかりと根づいていくのだと感じております。

その後、コロナ禍でのWeb開催を経て、現在ではAIの活用が語られる時代となりました。発表の質や視点、テーマは年々広がりに、まさに隔世の感があります。学び合い、それをより良いケアへと還元しようとする姿勢は、家族の立場から見ても大きな安心と信頼につながっています。

今回、特に印象に残ったのは、最優秀賞を受賞された目黒中央の家の取り組みです。記録AIを活用した分析をもとに、チーム一人ひとりに丁寧に寄り添った支援が行われていることが、よく伝わってまいりました。

また、理事長賞を受賞された霧が丘地域ケアプラザの産後うつへの取り組みも、少子化が進む社会において極めて重要なテーマであると感じました。職員が専門性を高め、その知識を地域へと広げながら、地域全体で子育てを支えるという視点は、高齢者分野にとどまらず、奉優会が幅広い世代を支える存在であることを実感させるものでした。

こうした取り組みをさらに広げていくためには、「次につなげる」という視点が欠かせないのではと考えております。発表された実践が現場にどのような変化をもたらした、事業部全体へどのように展開されていたのか——その歩みまで共有されることで、学びはより一層力強いものになるはずです。

事例研究発表会が、これからも奉優会の未来を切り拓く原動力であり続けることを願っております。

そして、長年介護に携わってきた一人として、介護の根底にあるのは愛情であり、一人ひとりに丁寧に向き合う姿勢であると実感しております。その思いが大切に受け継がれ、さらなる飛躍へとつながっていくことを心より期待しております。

社会福祉法人 奉優会 評議員  
等々力の家 豊友会(家族会)名誉会長  
**毛利 美根子**

### 4 常務理事賞

#### 「やりたい」が力に。心弾む「トラベルデイ」への挑戦 ~役割と外出支援で、もう一度自分らしい生活を~

■「やりたい」が意欲を動かす。夢を叶える支援へ

川崎馬蹄では、ご利用者一人ひとりの「やりたい」という想いを大切にしています。機能訓練だけでなく、夢の実現につながる「外出支援(トラベルデイ)」を通じて、意欲と笑顔を取り戻された事例をご紹介します。

**S様(要介護2)**

- 78歳男性
- 転倒や入浴で歩行機能が低下
- 現在は電車に乗る機会がなくなり、目標も諦めがちになりハビリにも意欲低下

**生活歴**

- 若いころから電車に乗ることが好き
- 奥様と全国各地を旅行

目標 ▶ また電車に乗ってかけたい 出かける喜びを取り戻したい

意欲を取り戻す取り組み

「できるようにしたら」と待つのではなく、本人の意欲こそ重要なファクター。「どうすれば叶えられるか」を考え、体験から意欲を掻き立てました

鉄道をテーマにしたテレビゲームに挑戦! のっちゃんDENSYA

意欲を通過! 電車の楽しみを再発見!

また電車に乗りたいな〜 歩けるようになりたいな

車椅子からシートへ

全国各地への旅行の思い出話に花が咲き、お仲間との会話も増えた

取り組みの成果

機能訓練の拒否	拒否していた	訪問リハ導入!
取り組み前	10～20%	拒否によるキャンセル0%
ショートステイ利用	毎月2回(2泊3日)	0回
デイの利用	週2日	週3日

ご家族より ありがとうございます。個人的にも夢を叶えてあげようと思いました。

■今後の展望

ご利用者一人ひとりの「やりたい」「もう一度叶えたい」という想いを大切に、その実現に向けた支援を広げていきます。夢や目標を日々の活動や機能訓練につなげながら、これからも人生の楽しみや自信を取り戻す支援を続けていきます。そして、想いを力に変え、心が弾む毎日につながるデイサービスを目指していきます。

### 2026年6月1日 NEW OPEN!

#### 特別養護老人ホーム 上用賀の家

#### 優ったり看護小規模多機能介護 上用賀

所在地 世田谷区上用賀6-2-9

アクセス 東急田園都市線「用賀駅」徒歩16分

事業内容

- 特別養護老人ホーム(29名)
- 看護小規模多機能型居宅介護(登録29名)
- 地域交流スペース

玄関入り口

特養 共同スペース

看多機 共同スペース

地域交流スペース

CONTACT 見学・入居・利用をご希望の方はこちら

特養

03-6804-4591

kamiyoganoie@foryou.or.jp

看多機

03-6804-4593

kamiyoga-kantaki@foryou.or.jp

### 2026 April Vol.17 2026 April 17 2026 4月17日発行

#### 第18回奉優会事例研究発表会を開催しました!

第18回奉優会事例研究発表会が令和8年2月22日(日)にハイブリッドにて開催され、法人職員はじめ自治体、学校関係者の皆様745名が参加されました。全235事例の中から46事例の発表がありました。そのうち表彰10事例を紹介させていただきます。

#### 家族会の視点から振り返る事例発表会

等々力の家の家族会は、長年ご自宅で介護を続けてこられたご家族が、「入所後も何か職員の皆さんのお力になりたい」という思いから生まれた集まりです。私自身もその一員として関わってまいりました。家族が退所した後も、そのつながりは途切れることなく、現在も買い物ボランティアなどの活動を続けているメンバーがおります。家族会としての活動の形は変化しつつありますが、そこにある思いや関係性は、今もなお大切に受け継がれているものと感じております。

私はこれまで、等々力の家の家族会として、毎回事例研究発表会を拝見してまいりました。第1回より家族会を代表して参加し、その後は家族会名誉会長、評議員という立場となってからも、引き続き出席しております。

第1回の発表では、胃ろうで栄養を摂られていたご利用者が、かつて仕事にされていたソーセージづくりをきっかけに「食べる意欲」を取り戻された事例が紹介され、今も強く印象に残っております。その発表に触れられ、家族会でも実際にソーセージづくり体験会を開催したことを思い出します。

事例研究発表会初期の頃からパワーポイントを活用し、職員の皆さんが「より良いケアを目指したい」という熱意を持って取り組まれていた姿に、深い感銘を受けました。現場の実践を言語化し、共有していく文化は、その頃からしっかりと根づいていくのだと感じております。

その後、コロナ禍でのWeb開催を経て、現在ではAIの活用が語られる時代となりました。発表の質や視点、テーマは年々広がりに、まさに隔世の感があります。学び合い、それをより良いケアへと還元しようとする姿勢は、家族の立場から見ても大きな安心と信頼につながっています。

今回、特に印象に残ったのは、最優秀賞を受賞された目黒中央の家の取り組みです。記録AIを活用した分析をもとに、チーム一人ひとりに丁寧に寄り添った支援が行われていることが、よく伝わってまいりました。

また、理事長賞を受賞された霧が丘地域ケアプラザの産後うつへの取り組みも、少子化が進む社会において極めて重要なテーマであると感じました。職員が専門性を高め、その知識を地域へと広げながら、地域全体で子育てを支えるという視点は、高齢者分野にとどまらず、奉優会が幅広い世代を支える存在であることを実感させるものでした。

こうした取り組みをさらに広げていくためには、「次につなげる」という視点が欠かせないのではと考えております。発表された実践が現場にどのような変化をもたらした、事業部全体へどのように展開されていたのか——その歩みまで共有されることで、学びはより一層力強いものになるはずです。

事例研究発表会が、これからも奉優会の未来を切り拓く原動力であり続けることを願っております。

そして、長年介護に携わってきた一人として、介護の根底にあるのは愛情であり、一人ひとりに丁寧に向き合う姿勢であると実感しております。その思いが大切に受け継がれ、さらなる飛躍へとつながっていくことを心より期待しております。

社会福祉法人 奉優会 評議員  
等々力の家 豊友会(家族会)名誉会長  
**毛利 美根子**

### 1 最優秀賞

#### 1日の瞬間も、365日の積み重ねも、あなたらしく ショートステイと特養の個別認知症ケア ~DEMBASE×AI~

■感覚に頼らない、根拠あるケアをチームの文化に

認知症のある入居者の言動に戸惑いながらも、「なぜその行動が起きているのか」をチームで考え続け、取り組みは3年目になりました。認知症評価(DEMBASE)や介護記録を通して気づきを見える化し、誰が関わっても同じ視点で寄り添えるケアを目指した取り組みです。

致すなら致せー!

周辺症状 大声、拒否、職員を叩く  
強い不安や拒否の言動が続く...

DEMBASEを活用したケアの実践により一度は状態の改善がみられたが、担当職員の変更により再び拒否行動が増加してしまっ...

MEMO DEMBASEとは?

認知症の周辺症状をNPI評価で数値化し、症状の変化やケアの効果を見える化する。点数が高いほど周辺症状が強くなります

気持ちに寄り添い、否定せずに思いを受け止める

関わり方の技術 × パリテーション 気持ちへの共感

記録の比較分析を実施しケアの方向性を確認

不安・拒否の記録 65% 20%

不安・拒否の記録が大幅に減少!

実施したケアによる変化を数値化し確認

82点 ▶ 48点

適切な睡眠が取れているか

R6年12月 平均5時間 R7年7月 平均8時間

平均睡眠時間が3時間増加!

不安や拒否が減少し自分らしい生活を送ることが出来るように!

穏やかに過ごせる時間が増えました!

「感じるケア」から「見えるケア」そして「つなげるケア」へ

- 共通理解をつくる
- 気づきを行動にする
- 見える化し文化につなげる

● NPI評価を実施し状態を客観的に整理 ● 課題に対して関わり方を工夫して実践 ● 効果のあった関わりを言語化

● チームで共有し個別ケアの目標を設定 ● 職員の気づきを残しケアの振り返り ● 誰でも実践できる形に整理し共有

特養 + ショートステイ 施設全体の共通文化として根付かせる

### 2 優秀賞

#### 生きる力をつなぐケア ~家族とチームが寄り添いあきらめかけた日常を取り戻す~

■生きる力を信じた家族と看多機の支援

ご家族の「最期は在宅で」との思いから、2025年6月に三軒茶屋看多機の利用を開始しました。しかし、直後に急激な状態悪化により薬療法と点滴治療を開始し、6月26日に看取り契約を締結、余命1週間と宣告されました。重度の要介護状態の中で在宅生活を諦めていた利用者様とご家族が、三軒茶屋看多機およびその他の医療機関等と連携することで、日常を取り戻し「生きる意欲」をつないでいったプロセスについての発表です。

Y様(要介護5) 2023年

ご利用までの経緯

原因不明の咽頭腫 2023年

甲状腺がん 内服治療 2024年2月

硬直下血腫で入院 2025年2月

ADL低下 ショートステイ利用

Y様 「死んじやいそう」 出来る限りのケアをしたい、介護経験なく不安...

医師 身体的負担や苦痛を少なくし、穏やかな最期を迎えられるケアが必要

想いを受け止め、無理のないケアで寄り添う

6月~7月 往診医師との密な連携

8月~9月 家族の思いに寄り添う支援

10月以降 その人らしい生活を支える

111日ぶりに来所が実現

心も体も更に回復 ● ご家族と神社への外出 ● 入浴も週2回に増加

水分摂取量 6月 309ml 12月 823ml ▶ 約2.5倍!

BI(ADL評価指標) 0 25 ▶ ADL向上!

毎日の訪問でやり方も教えてもらい、不安も解消されました

歩けるようになった! 孫の結婚式に参加したい!

Y様 ご家族

■今後の展望

本事例は、看取り期においても「その人らしい日常」を支える視点の重要性を示しました。今後も多職種が連携し、看護小規模多機能の柔軟なサービスを活かしながら、利用者一人ひとりの思いや今後の展望、可能性に寄り添った在宅生活実践を深めていきたいと考えています。

